

呼吸器疾患学術講演会を開催!

去る平成22年12月18日(土)に『呼吸器疾患学術講演会』を開催しました。

一般講演として『喘息患者のコントロール状況－ACTを通して－』当院呼吸器科 西岡慶善副部長が講演を行い、特別講演として『姫路の病診連携－勤務医の立場から－』独立行政法人 国立病院機構姫路医療センター副院长 望月吉郎先生と『姫路の病診連携－開業医の

立場から－』寺田内科呼吸器科 院長 寺田忠之先生にご講演いただきました。

ご参加いただいた皆様の感想はさまざまですが、勤務医・開業医それぞれの役割の重要性を再認識でき、有意義な会であったと思われます。

ご参加いただいた先生方誠にありがとうございました。

地域医療連携課 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年は大変お世話になり、ありがとうございます。地域医療連携課では『結ぶきずな 地域とともに』をスローガンに今まで以上に先生方のご要望にお答えできるよう、課員一同取り組んでまいる所存です。

今年もどうぞ宜しくお願い致します。



これからの行事予定

がん診療研修会Ⅰ

日時／平成23年2月4日(金) 19:00～20:00

場所／福井赤十字病院 栄養管理棟 3階講堂

演題／『在宅緩和における地域連携～高岡における取り組み～』

講師／富山県済生会高岡病院

　外科部長・緩和ケア委員長 村上望 先生

地域医療連携交流会

日時／平成23年2月24(木) 19:00～21:40

場所／ホテルフジタ福井(福井市大手3-12-20 ☎0776-27-8811)

がん診療研修会Ⅱ

日時／平成23年3月4日(金) 19:00～20:00

場所／福井赤十字病院

　栄養管理棟 3階講堂

演題／『がん医療における

　心の問題とその対応』

講師／埼玉医科大学国際医療センター

　精神腫瘍科教授 大西秀樹 先生

地域医療連携課

受付時間／平日 8:00～18:30

　土曜 8:30～12:30

TEL 0776-36-4110(直通)

FAX 0776-36-0240(専用)



<http://www.fukui-med.jrc.or.jp>

e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第37号発行

平成23年1月

福井赤十字病院



結ぶきずな 地域とともに

Partner

Japanese Red Cross Fukui Hospital

パートナー vol.037

福井赤十字病院連携通信



当院のボランティアさんの作品

Topics トピックス

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。連携医の先生方には、良き新年を迎えた事とお慶び申し上げます。

さて、世情は政権交代、ねじれ国会、デフレ、尖閣諸島沖事件などの影響で混沌としていますが、当院は今年も地域医療の向上に貢献すべく努力して参ります。

昨年来の病院中期計画の目標である「県内一の地域医療支援・がん診療拠点病院」を目指して、地域医療連携/救急医療/診療機能の充実、職員の教育研修による質の向上を図ります。具体的には、高度医療機器を整備し、呼吸器や消化器病センターを設置し、内視鏡手術の研修アカデミーを充実します。また、結核病棟を含む管理棟の耐震化工事を始めます。連携医と患者の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願い致します。

尚、10月に「日本赤十字社医学会総会」を福井市で開催します。「健康長寿日本の中で、赤十字の明日を育てる」をメインテーマ、地域医療連携スローガンの「結ぶきずな、地域と共に」をサブテーマにして、全国の赤十字の医療人が一堂に会し、病院機能や活動について研鑽を積みますので、ご支援願います。

最後になりましたが、連携医の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



福井赤十字病院 院長
野口正人



福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもとに、県民の求める優れた医療を提供します。

基本方針

- 患者様の権利と意思を尊重し、相互理解に基づく医療を行います。
- 患者様に優しい医療を提供します。
- 医療の安全と質の向上に努めます。
- 地域の保健・福祉・医療機関と連携を進めます。
- 救急医療を充実させ、地域の急性期医療を担います。
- 災害時に積極的な医療救援や救援活動を行います。

“傷を治すプロ” 福井赤十字病院 形成外科の紹介

「形成外科とは?」と、時々患者さんに聞かれます。形成外科は、皮膚科・耳鼻科・整形外科・歯科口腔外科と重なる分野が多く、また、手術も他科との連携をはかることが多い少し特殊な診療科です。「傷を治すプロフェッショナル」と

して、日々診療に当たっています。綺麗に傷を治すこと、治りにくい傷を治すことを使命とし、患者さんの満足度向上を目指しています。

具体的な分野を挙げて説明します。

《熱傷》

当院では麻酔科医と連携し形成外科医が診療にあたります。急性期はICUで、定期は形成外科一般病床管理となります。傷を治すのは当然の事として、その上に、機能的に満足のいく修復が必要です。顔面・頸部・四肢関節領域・手などは特殊領域で関節可動域を考慮した再建が必要です。リハビリを含め後遺症のない術後を目指します。



《手足の外傷》

挫滅がひどい、神経や血管、筋肉などの組織損傷が著しい場合、形成外科が対応します。神経や血管を含め修復可能な組織は修復し、不可能な場合は他の部位からの組織移植を行います。切断指なども可能な限り再接着します。



《顔面外傷・骨折》

顔面神経損傷や耳介・眼瞼挫滅など、形態や機能を重視した修復を行います。鼻骨を含めた顔面骨骨折についても傷跡の残りにくい再建方法を選択します。



《瘢痕拘縮・ケロイド》

保存療法、手術療法、放射線療法などの治療法から創部の状態、患者の希望にあわせて柔軟に治療の選択をします。



形成外科医師
神野 千鶴

《良性腫瘍・悪性腫瘍》

良性腫瘍も可能な限り傷跡が綺麗になるよう心がけています。悪性腫瘍に関しては、切除から再建、必要に応じて放射線化学療法まで一貫治療を行っています。皮膚悪性腫瘍や軟部悪性腫瘍では切除範囲が大きくなり、外観・機能的に再建が必要な場合が多くなります。顔面の組織欠損や、以前は切断を要した手足の腫瘍などでも温存を心がけ筋肉機能再建を行っています。

乳房再建では、自家再建を主力に行っていましたが2010年10月よりインプラントを用いた保険外診療が可能となり、自分の身体に傷をつけずに再建することも可能となりました。高齢者や、今まで乳房欠損の状況で長年過ごしていた方でも再建可能です。



《難治性潰瘍》

糖尿病性潰瘍・動脈閉塞性潰瘍・静脈うっ滞性潰瘍・褥瘡、それに伴う骨髓炎・蜂窩織炎・壊死性筋膜炎を治療します。フットケアなどは形成外科分野において重要度が増しており、いかに切斷せず下肢救済を行うかさまざまな治療を試みています。



《先天異常》

先天異常は領域がかなり広範囲であり、患者側としてもさまざまな悩みを抱えています。手足の先天異常から唇顎口蓋裂、筋肉異常、血管異常など、整容的なものから機能的なもの精神的なもの、さまざまな方向からの治療が必要となります。当科では、患者家族を含め安心して治療を受けられるよう対応を心がけています。



《その他》

眼瞼下垂や腋臭症、身体の非対称、顔面神経麻痺、さまざまな悩みに対し手術治療および精神的ケアを行っています。領域が多岐にわたるため割愛いたします。

以上、簡単に挙げるだけでも様々な分野があります。怪我や、悪性腫瘍、生まれつきなもの、様々な理由で悩んでいる方の「癌だから…、怪我をしたのだから…、生まれつきだから…、しかたがない。」この「しかたがない」を少しでもなくすために我々は奮闘しています。
治療方法も多岐にわたるため、何かありましたらご相談いただけすると幸いです。